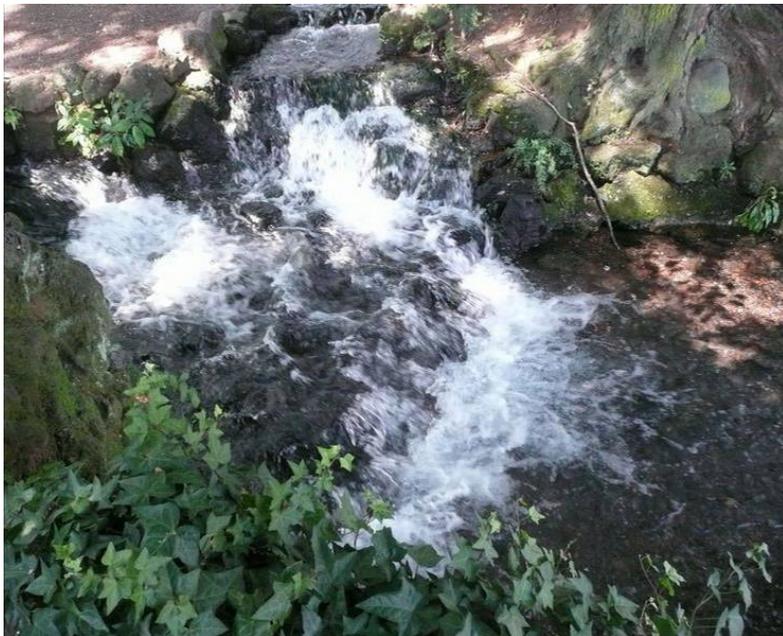




三島の宝物を次世代にまで。新たなる年に更なる飛躍を！



「水の世紀」といわれる 21 世紀の 2 年目がスタートしました。

設立満 10 周年を迎えた昨年は、6 月の「富士山井戸端フォーラム」、9 月に詩人の大岡信さんを迎えて開催した「10 周年記念フォーラム」、『10 周年記念誌』発行などの記念事業をおこないながら、今後の活動の方向性を模索した 1 年でした。

今年は 11 年目の活動の基盤づくりの大事な年です。

三島の宝物を次世代に引き継いでいくために、これからも会員の皆様の積極的なご参加と暖かい応援をよろしくお願ひします。

湧水が少なかった昨年、11 月に突然湧水が復活し、人々を驚かせた白滝公園のせせらぎ

10 周年を迎えてのご挨拶

三島ゆうすい会会長 塚田冷子



平成 3 年 9 月 28 日に「三島ゆうすい会」が設立されました。

冒頭にあたり、10 周年を迎えることができましたのは、ひとえに、周りの方達、企業、行政のご協力あつての事、又先輩諸兄諸姉の歴史のうえに存在することが出来たことに、御礼と感謝を申し上げます。

昭和 37 年小浜池が枯渇し昭和 39 年 2 月 20 日に故緒明太郎氏、故窪田精四郎氏、故塚田静保が「三島湧水を守る会」を設立しています。

窪田精四郎市議の柿田泉湧水を工業用水にとの発想とその実現により、現在の三島の源兵衛川、宮さんの川の水源が保たれているのです。

昭和 50 年代の三島中の河川は溝（どぶ）川でした。

平成 3 年 9 月 28 日、志を同じくした有志の「三島ゆうすい会」設立ではありましたが、一部の方を除いた私達は三島湧水に対して本当に無知でした。毎月毎月三島新聞堂の 2 階をお借りして、その道の専門家をお呼びして必死に勉強いたしました。

緒明實名誉会長（「三島ゆうすい会」前会長）が設立時、「湧水でビールを冷すことが出来るようになったら目的は達成されることになる」と言われた途端、小浜池の水位は 10 月 156cm、11 月 165cm と急上昇しました。神様が我等三島ゆうすい会を祝福してくれたのだと思いました。この時は山中湖、河口湖は大増水です。自然には私たちの計り知れない不思議が一杯存在します。

三島の湧水が、三島の生活風土を培い、三島人の穏やかな、のんびりとし

た性格を育ててきたのも事実です。三島の湧水池には必ず水神さんがあり、「粗末にすると罰があたるよ」と言われたものです。

夏の源兵衛川は子供達で一杯です。石で塞ぎ水嵩を上げ、泳いだり、小魚を追い込む場所を作ったりして、1 日中遊びながら工夫を凝らしています。どんなに冷えても止めません。五感を通しての感動は一生忘れません。

“故郷”の歌のように、水は清き故郷を次世代に残す義務があります。消費社会だった 20 世紀に忘れてきたものをもう 1 度取り戻すべく、努力を今世紀も続けてゆきたいと思います。

（平成 13 年 9 月 29 日発行『三島ゆうすい会 10 周年記念誌』より）

— 目次 —

10 周年を迎えてのご挨拶・・・P.1
10 周年記念フォーラムの報告・・・P.2, P.3

遊水なんでも探偵団の報告・・・P.4, P.5
その他の活動報告・・・P.6～P.7

今後の予定・・・P.8
入会・寄付・助成金報告

『水の都・三島』の水環境再生めざして新たなる出発 大岡信さんを迎え 10周年記念フォーラム開催

水の都・三島の水辺・自然環境再生を目指して、各界各層の市民が参集し「三島ゆうすい会」が発足して10年が経ちました。これまでの活動の歩みを振り返り、さらなる10年に向かっての新たな出発点として9月29日（土）、詩人で本会名誉顧問の大岡信さんを特別ゲストに迎え、「10周年記念フォーラム」を開催しました。



△開会セレモニー

午後1時、会場の三島市民文化会館小ホールには、会員をはじめ学校関係者、関係諸団体の皆様方など市の内外から約230名の方にご来場いただき、フォーラムを開催しました。

10周年前の9月28日、同じ三島市民文化会館の大会議室に100名の会員が集まり開催された。「設立総会」以来、様々な活動に取り組み、継続し、迎えたこの日のフォーラムは、荒削りの熱意に溢れた「設立総会」とはまた違った落ち着いた雰囲気でした。

開会セレモニーでは、来賓を代表して小池政臣三島市長からご祝辞をいただきました。市長は三島ゆうすい会の10年間を高く評価し、また、せせらぎ推進事業など三島市としての環境への取り組みを話したうえで、これからの本会の益々の活動に期待しますと結びました。

このセレモニーの中で、感謝状贈呈式をおこないました。本会の活動をご支援くださっている本当に多くの方々を代表して、平成13年度分11名様のうち、当日出席した6名（社）の方に会長から感謝状を贈呈しました。

■ 水辺がもたらす、子どもたちへの心の教育

フォーラム第1部のテーマは、水辺がもたらす子どもたちへの心の教育。『三島ゆうすい会10周年記念』ビデオによる活動紹介、「ふじのくにゆうゆうクラブ・遊水なんでも探偵団」の子どもたちへのインタビュー、市内小学校・PTA関係者、本会役員によるパネルディスカッション「環境いどばた会議」などをおこないました。

「環境いどばた会議」では、本会の小松幸子運営理事が進行役となり、水辺がもたらす心の教育、子どもたちが水辺に学び、自然とふれあうこと、環境づくり、地域・学校が果たすべき役割などについて、会場とのやりとりを交えて話し合いました。

錦田小の関義幸校長は、子どもたちのミシマバイカモを育てる取り組みについて話し、学校のビオトープづくりの活動をしている西小PTA会長の望

月義和さんは「自然がよく残る清住緑地で子どもと一緒に遊びましょう」と会場の参加者に呼びかけました。長伏小PTA会長の平野英治さんは「許されないことだが、ビオトープのために井戸を掘りたい」と本音をのぞかせました。佐野小の長谷知子教諭は「今、子どもたちとホテルがすめる場所を探して、幼虫を放流しようとしています」と話し、南小の佐野悦子教諭は子どもたちと一緒に御殿川の水源の湧水を見つけたときの感動を語ってくれました。

本会の佐伯忠夫理事、岩田重理理事は「遊水なんでも探偵団」や小学校での出前講座など、水を通じての本会と環境教育の係わりを話しました。佐伯忠夫理事が道具持参で実演した昔の川遊びの様子は会場からも「懐かしい」との声があがっていました。

■ 大岡信さんのメッセージ

せせらぎ推進事業のテーマソングでもある“水よ輝け”などのミニコンサートをはさんで続く第2部は、大岡信さんをゲストに迎えての「トーク・イン・トーク 富士山の恵みに感謝」。

大岡信さん、NPO法人グラウンドワーク三島理事長でもある緒明實名誉会長、塚田冷子会長、渡辺豊博副会長が壇上にあがり、スクリーンで桜川や

◇ 平成13年度感謝状贈呈先

青木 峯 子
遠州屋 染物店
小野 建設(株)
キザイ テクト(株)
(株)栄 設 計
佐野 美術 館
住友建設(株) 静岡支店
東レ(株) 三島工場
原 川 弘 子
広 川 建 設 司
水 口 健
(50音順・敬称略)



左：環境いどばた会議のパネリストのみなさん
中：来賓の皆さん
右：「天水尊」発祥地・墨田区から駆けつけてくれた、雨水リサイクル研究所の徳永暢男さん（左）と塚田会長



左：トーク・イン・トーク「富士山の恵みに感謝」
 （左から大岡さん、塚田会長、緒明名誉会長）
 中：元気な声を響かせた「遊水なんでも探偵団」の子どもたち
 右：「水よ輝け」「ふるさとの唄」を歌うFMボイス・キューのパーソナリティーの小坂真智子さん

水の特性は流れること。よどめば腐る。
 三島ゆうすい会はこれからも“流す”“流れる”ことを根本に置いて活動してほしい。“これでいい”と思った瞬間に腐り始める。

源兵衛川などの昔と今の水辺の写真を見ながら意見を交わしました。

「三島で生まれたことが私にとって根幹になっている」という大岡信さんは「三島の水は富士山からいただいているもの。他の土地の水とは違う。たくさんの時間をかけて、富士山の雪解け水が三島にたどりつく。たくさんの岩や砂にろ過されて、きれいな水となって湧き出す。このろ過されるということが貴重。いったん沈み込んでから湧き上がるところに価値がある。人間の思想もそう」と話し、「水の特性は流れること。よどめば腐る。三島ゆうすい会はこれからも“流す”“流れる”ことを根本に置いて活動してほしい。“これでいい”と思った瞬間に腐り始める」とメッセージをくださいました。

司会を務める渡辺豊博副会長の軽妙な進行で、「水ガキ」「川で洗濯」などの昔話、「三島美人」に「大岡さんの幼い日の淡い恋物語」なども飛び出し、話題は「三島ゆうすい会設立時の裏話」「富士山のトイレ事情」にまで。あっという間に時間が過ぎました。

最後に塚田冷子会長は「これからも



左：フォーラム終了後、市内ホテルでおこなった記念交流会で、談笑する大岡信さん（左から2番目）
 右：記念交流会の会場風景

水にしがみついてやっていきたい」、緒明名誉会長は「やっと基礎ができたところ。みんなで楽しく、やってよかつたと思えるような活動を続けたい」と今後の活動について話し、フォーラムは閉幕した。

■ 「水の都・三島」再生の
 パワーの源

午後5時30分からは、市内の三島グランドホテルに移動して、「10周年記念交流会」を開催しました。

多くの方にご参加いただき、にぎやかな交流会となりました。こうした人と人との交流が「水の都・三島」再生活動のパワーの源なのかもしれません。

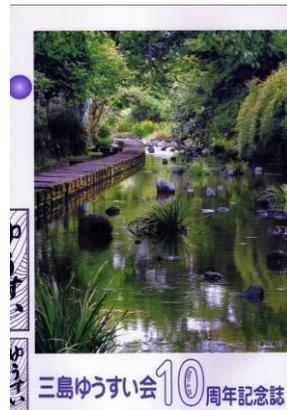
交流会の最後に、この日を三島ゆうすい会の新たな出発点として、これからも地道に活動を継続することを誓い、閉会しました。

* * *

超多忙の中、おいでくださいました大岡信氏をはじめ、ご参加くださいました皆様方に心より感謝申し上げます。



大好評！『三島ゆうすい会10周年記念誌』



三島ゆうすい会 10周年記念誌
 A 4版 152ページ

大岡信氏の巻頭詩「三島奈良橋回想」と特別インタビュー、故郷の水を愛する人々の思いと本会の活動の歩みを綴った『三島ゆうすい会10周年記念誌』に大きな反響をいただいています！

先日は三島市からの依頼により市内の小・中学校全校に資料として各1冊ずつ寄贈することになりました。

フォーラム会場でもお配りしたこの本。ご覧になった方の感想はいかがでしょうか。編集作業中、寄せられた原稿に感動し作業の手を休めて盛りあがったこともしばしばでした。是非多くの方に読んでいただきたいと思います。

現在、ご希望の方に1冊1,000円（送料別）で販売しています。事務局までお申し込みください。



△フォーラムに間に合わせるために頑張った編集メンバーの皆さん

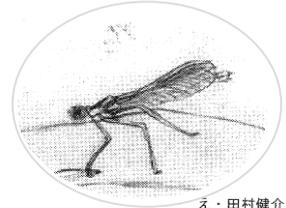
遊水なんでも探偵団の報告

ふじのくにゆうゆうクラブ 遊水なんでも探偵団

▽「ふじのくにゆうゆうクラブ」とは、県内の小・中学校、盲・聾・養護学校の生徒を対象に静岡県生涯学習財団がおこなっているもので、学校休業日に地域の人たち等を先生に、自分の趣味や興味のあることを遊びながら体験する講座です。
本会では水の学習事業の一環として講座を運営し、会員が講師を務めました。

スタート

古今東西、楽しい遊びを君たちに伝授しよう。



え・田村健介

第1回・三島の水って、どこからくるの？(6/23)



★川であそべてうれしかった。もえちゃんにささぶねを作ってもらってうれしかった。
(小林菜穂美)

第4回・できるかな！ 水車模型づく(8/11)



★作るのがとてもむずかしかった。できばえはそこそこだった。天気は快晴の中、楽しく行なう事ができました。(本間雄大)

第2回・染め物に チャレンジ！(7/14)



★色をぬったら、さいしょは白だったけどだんだんピンクになってきたのでおもしろかった。
(高野由佳)

第5回・蛍とミシマバイカモの 秘密を探る(8/25)



★ホタルのメスがオスより大きいって、しらなかった。
(菊池 萌)

うれしいメールが届きました！

明けましたおめでとうございます。“ゆうゆうクラブ”でお世話になりました鎌田萌の父です。本日ホームページを拝見し、親の知らないところで遅くなってゆく娘を発見して、とても嬉しく思いました。

“ゆうゆうクラブ”には毎回喜々として出掛けて行き、帰ってきた際には目を輝かし新しい発見と新しい知識を早口で話してくれました。ホームページの写真を見ながら、その時々娘の報告を思い出しました。

親子共々感謝の気持ちを込めましてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。(2002/1/3)

鎌田明彦・萌

第3回・君の知らない 三島・水めぐり(7/23)



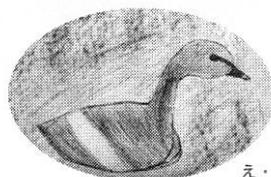
★水琴窟は、水が落ちてぶねれつして、それがまたはねてのくりかえしで、きれいな音がしました。まるで水の合唱だった。
(田村健介)

★三島の水はみんなきれいだった。水もつめたくてきもちよかった。(平井悠輝)

第6回・川で遊んじゃえ！(9/8)



★カニは岩の下にいたことがわかった。
(成嶋友祐)



え・近藤郁美子

もういじ